

## 「とよひら食堂」の取り組み

日本キリスト教会札幌豊平教会

牧師 稲生 義裕

## Lamb Lamb, Run !



vol.9



### 【“希望”のクリスマスにしたい】

COP26 (国連気候変動枠組み条約締結国際会議) からも、希望の光は射さなかった。海に沈みゆく国の叫びは封殺され、若者の未来は奪われつつある。「今だけ・金だけ・自分だけ」が世界を覆う。私どもも、アパートの隣の人の事は知らない。うっかり知り合うと面倒かも…と考えている自分がある。孤立が拡がり、困窮は深まり、ますます人から見えないところに閉じこもる。厳しい冬がやってくる。

やがて5年を迎えようとする毎週金曜日の「とよひら食堂」は、教会の呼びかけに応じてくださった市民によって開始され、一体となった市民と教会がこれを担う。コロナ感染症流行の始め、食堂から弁当お渡しに切替えた昨年2月に60食だった弁当は、今や200食に近づく。それだけ困窮は広がっている。

だが、その深みに手が届かずにいる限界を常に感じていた。日本社会で、先ず困窮に苦しむのは女性。しかし女性留学生を除けば、弁当を受け取って頂くのは95%までが男性という現実を超えられずに来た。

女性の経済基盤は常に脆弱であったが、コロナ対応は彼女たちを直撃した。真っ先に仕事を失う。「コロナ禍以前から50%の母子家庭が困窮。こうした状況にある母子家庭全体の中で、コロナ禍の現在その30%が収入減、12%が収入無しに(9月毎日新聞)」。このデータからも女性の苦境はい

かばかりかと心が痛む。学校を出ても就職口を閉ざされた若年女性もいる。わずかな所持金でネットカフェに寝泊まりする女性もある。

日々の食に事欠く女性の手へ、せめてこの一食をと願ってきたが、その道が開かれそうな……兆し。

札幌ススキノのビルの一角をお借りして、路上に直に届けることを含め5か所目の「弁当・毎週手渡し拠点」を設けられそうだ。ここは「おっさんゴメンネ」で、女性・LGBTQの方々限定で気楽に立ち寄り頂ける場にしたいと目下、準備中！

神から賜る恵みは、もともと誰のものでもない。多く預かった者は、分かち合うために預けられた。共に生きる仲間と、神から賜る恵みを分かち合い喜び合いたい。

開始日：遅くとも12月24日(金)には開始

お渡し場所：ビル管理会社の返事待ちで現在未公表

決まり次第、札幌豊平教会ホームページに公開。

「札幌豊平教会」で検索を。

孤立を超えて繋がる“希望”のクリスマスを生み出しましょう。ご支援と祈りに感謝しつつ。